

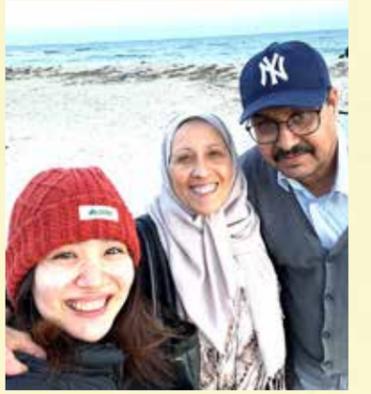


▲試合間のアドバイスをしている様子

1つ目に、海外での生活や人々に  
対する不安が和らぎました。派遣前  
は、「日本と文化も食事も何もかも  
違う国で生活していきけるだろうか、  
外国人の私に対して現地の人々は  
どう接してくるのだろうか」と不安  
でしたが、チュニジアでは優しく、  
ユーモアに溢れた人たちに囲まれ  
て生活しており、ここに来る前に抱  
いていた不安は無くなりました。  
2つ目に「一度の機会を大切にし  
よう」という思いが強くなりました。  
そこで過ごす期間は2年間と決  
まっていたため、訪れる場所やその場  
所で出会った人々と会話ができる  
のは「最初で最後かもしれない」と  
思うようになりました。その場所や  
人との時間や瞬間を大切にしたいと  
考えるようになりました。  
3つ目に、指導の大変さと面白さ  
に気づくことができました。私は卓  
球を始め20年経ちますが、1年間

2  
派遣前の自分と、現在の自分を  
比べてどのような変化を感じて  
いますか？価値観や考え方にど  
のような影響がありましたか？

を通して卓球の指導者として選手  
たちと関わることで、さらに、卓球を  
ゼロから始める子どもたちや、小中  
高生を対象に卓球を指導すること  
も初めてでした。結果が出ず、「何か  
しなければ！良い結果を残さなけ  
れば！」とどこか焦っては「このま  
まで良いのだろうか」と不安になる  
こともありました。同時に自分自  
身にも期待していたことに気づき  
ました。指導中に私の言語力不足に  
より小学生に対して伝えたいこと  
が伝わらなくてお互い困ってしま  
うことも多々ありましたが、伝わら  
ない時や、選手たちの「できた！」とい  
うキラキラした表情を見ると、私ま  
で嬉しくなるのだなということに  
気づきました。このような小さな成  
功体験を積み重ね、卓球以外の場面  
でも「やればできる！」という自信  
につなげていけたらいいなという  
想いがあります。練習を積み重ねて  
いくなかで焦らず粘り強く選手と  
向き合うこと、選手の力を引き出す  
ためにはどのような練習、問いかけ  
をしたら良いか、真剣に考えるよう  
になりました。  
4つ目に、外見だけで人を判断  
しないように気をつけようと思う  
ようになりました。初対面の人に  
日本以外の国の出身かと聞かれた  
時に少し寂しい気持ちになること  
や、私は日本人であることを相手  
にわかってほしいと考えているの  
だなと気づきました。そのことが  
あってからは、相手の出身国を聞  
きたい時には、国名を言うのでは  
なく、「どの国の出身ですか？」と  
質問しています。



▲いつもお世話になっているご夫婦

今の夢は自分の卓球場を持ち、卓  
球の指導をすることです。そこでは  
私が経験してきた海外生活のこと  
についても話したいと考えていま  
す。今まで出会ってきた人々との繋  
がりや大切に、私がおばあちゃんに  
なっても卓球を続けていきたいで  
す。また、色々な国に行き、その国の  
文化や生活を自分の肌で感じ、自分  
の目で新しい景色をたくさん見て  
みたいですね。各国に派遣されてい  
る協力隊が執筆する「世界日記」を  
読んでみると、当たり前のことかもし  
れません。国によって食事や生  
活文化は全く違うのだなと感じさ  
せられます。  
私はその違いにとっても惹かれま  
す。海外での経験を特に子どもたち  
に伝えていき、自分と他者との「違  
い」を嫌だと思わず、お互い  
を尊重し合い、受け入れてくれる  
優しさが海外にもあるということ  
を伝えていける存在になりたいです。

3  
現在の活動を通じて、今後どの  
ような目標や夢を持っていま  
すか？

今住んでいる南風原町や、家族や  
友達、故郷で出会った人たちは、離  
れていても自分にとって大切な存  
在になると思います。  
出国前は海外での生活に不安が  
ありましたが、今ではチュニジアで  
の生活は私の人生のなかで大切な  
経験になるだろうなと既に感じて  
います。日本では見られない景色に  
驚いたり、人々と関わる中で考え  
方の違いが面白いと思うこともあ  
れば、戸惑うこともあります。そんな  
時に私の中の大切にしたい考えに  
気付けることができるのだなと最近  
思います。  
何か新しいことに挑戦するきつ  
かけは人によって違うと思います  
し、ワクワク感だけではなく不安も  
あると思います。私はいつもそう  
です。それでも自分で「挑戦する！」と  
決心して行動に移せば新しい何か  
が待っていて、楽しみながら、悩  
みながら物事や人に向き合う経験が  
自分の自信に繋がると思っています。  
今しかできないことを大切に、  
自分の中の好きなことや挑戦した  
いことを大切に、自分を信じて前  
進むことを心から応援しています！

4  
南風原町の若者に向けて、アド  
バイスや応援のメッセージを  
お願いします。



南風原町出身  
青年海外協力隊  
城間春香さんインタビュー

後編  
南風原から世界へ、そして未来へ  
～青年海外協力隊員の今とこれから～

問 総務課 ☎889-4415

前編では、城間さんが青年海外協力隊に参加したきっかけや、派遣先での活動内容、そして南風原町で育った経験が現在の活動にどのような影響を与えているかをご紹介します。  
後編では、現地の人々との交流や派遣前後での自身の变化、そしてこれからの目標に焦点をあてます。  
特集の締めくくりとして城間さんの思いと南風原町の若者たちへのメッセージをお届けします。

1  
現地の方々との関わりや、  
コミュニティを通じた  
学びなどはありますか？  
また、どのように信頼関係を築  
いていますか？

チュニジアの人々は明るく陽気  
で優しい人が多いと感じます。日本  
人に対して「日本は綺麗な国」「日本  
人は良く働く」と良い印象を持って  
いる人が多いようです。私が日本人  
だと伝えると「おー！日本なの！」  
と明るい反応が返ってくるので嬉  
しいです。  
また、チュニジアの人々は人との  
距離が近いように感じます。市場に  
行くと、同じものを見ていた人から  
「これいくら？」と聞かれたり、バス  
や電車を待っている時に「何時に來  
る？」と聞かれることが多く、人に  
声をかけることに対して抵抗感が  
ないので私も現地の人々に声をか  
けやすいと感じています。  
さらに、観光地や買い物に行つ  
た際にお店の方から「財布と携帯  
はしっかりとバックに入れるよう  
に気をつけて」と荷物に注意する  
ように促してくれることがありま  
した。盗難に遭ってしまふことも  
あるのだと気が引き締まる思いを  
した反面、初めて会う外国人の私  
に対し、このように伝えてくれる  
ことに嬉しさを感じました。  
普段はフランス語とアラビア語  
チュニジア方言で会話をしてい  
るので、現地の人々と会話を



▲大会会場で撮影(13歳、19歳以下の部に出場)

するときは、会話を諦めないこと  
と、分かったふりをしないことを心  
がけています。特に任地に住み始め  
た頃は、相手が何を伝えたいのか分  
からず、頭の中が「????」状態に  
なったことが何度もありました。そ  
の度に私に分かるようにゆっくり  
話してくれたり、それでも理解でき  
ない場合は翻訳機能を使ったり、  
とにかく相手や私の伝えたいこと  
をその場で理解し合いたいと考え  
ています。私が諦めなければ相手  
も諦めずに話してくれます。会話  
でのモヤモヤを自分と相手の中に  
残さないことが信頼関係を築くこ  
とにつながっているのかなと考え  
ています。